

漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	波関係
相談タイトル	気候変動適応策の設計について
相談者	長崎県
相談内容	<p>「漁港・漁場の施設の設計参考図書」において、気候変動に伴う将来の外力変化への漁港施設等の設計に対する基本的な考え方が明示されている。また、「漁港施設等における気候変動適応策の設計に係る手引き（案）」（以下、「手引き（案）」）を参考にできるとされている。気候変動に伴う外力変化量の設定のうち、平均海面水位については「手引き（案）」では、検討例として2020年現在を基準として、2100年までの平均海面水位上昇量0.4mの予測値から、50年後を内挿により算出するように示されている。その際の基準年の考え方について見解を聞きたい。また、同じく検討例の中で、波浪の増大分として現在の1.3倍と仮定した計算例があるが、この根拠が分かれば教えてもらいたい。</p> <p>「手引き（案）」には記述がない防風柵（付帯施設）について、設計参考図書の範囲内で設計し、気候変動への適応は現時点では行わない方向で整理したいと考えているが、この点について意見をいただきたい。</p>
相談会の結果（WEB協議：令和6年9月11日実施）	<p>水産技術研究所から以下のアドバイスをを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「日本の気候変動2020」では、平均海面水位について、20世紀末（1985年～2005年）に対して21世紀末では0.39m上昇すると記載されている。そのため、平均海面水位の上昇量の基準年としては2000年を基準に考えるのが望ましいと考える。 ● 波浪の増大分1.3倍については、NOWPHAS（ナウファス）の観測データから2100年を外挿して設定したものである。 ● 防風柵については、「手引き（案）」、「設計参考図書」には記載がないことや、想定している耐用年数が短いのであれば、とりあえず気候変動を見込まない方向で進めてもよいと思われる。

注意）本資料は設計相談会の事例を示すダイジェスト版です。実際の協議では箇所名や詳細なデータを挙げたうえで、より具体的な相談を行っています。